

# コルモゴロフ拡張定理

1

これから射影を  $p$  で書きたいからという理由で、確率測度を  $P$  とかではなく普通に  $\mu$  で表す頻度が増える。

**定理 1.1.** (Hopf の拡張定理)

有限加法族  $F_0$  上の有限加法的確率測度  $\mu$  が  $\sigma(F_0)$  上の  $\sigma$  加法的確率測度 (即ち、単に確率測度) に一意に拡張できる。

$\Leftrightarrow$  任意の単調減少列  $\{A_i\} \subset \mathcal{A}$  について、 $\lim_n \mu(A_n) > 0$  ならば、 $\bigcap_i A_i \neq \emptyset$  が成り立つ。

証明. 続編に収録. □

**定理 1.2.** (Kolmogorov の拡張定理)

$\mu_n$  を  $(\mathbb{R}^n, \mathcal{B}(\mathbb{R}^n))$  上の確率測度とする。

$\mu_n = p_{1, \dots, n \#} \mu_{n+k} \quad (\text{for } \forall k \geq 1) \Rightarrow \exists \mu : (\mathbb{R}^\infty, \mathcal{B}(\mathbb{R}^\infty)) \text{ 上の確率測度 s.t. } \mu_n = p_{1, \dots, n \#} \mu \quad \text{for } \forall n$

証明.

$\mathcal{S} := \{p_{1, \dots, n}^{-1}(A) \mid A \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^n), n \in \mathbb{N}\}$  上の有限加法的確率測度  $\mu'$  を  $p_{1, \dots, n \#} \mu' := \mu_n$  で定める。

任意の単調減少列  $\{S_i\} \subset \mathcal{S}$  について、 $\lim_n \mu'(S_k) > 0$  ならば、 $\bigcap_k S_k \neq \emptyset$  を示せば、Hopf の拡張定理より  $\sigma(\mathcal{A}) = \mathcal{B}(\mathbb{R}^\infty)$  上の確率測度に拡張できる。従って、 $\alpha := \lim_n \mu'(S_k) > 0$  として以下それを示す。

減少列  $\{S_i = p_{1, \dots, n}(A_i)\}$  をとり、各  $k$  に対して  $A_k \in \mathcal{B}(\mathbb{R}^k)$  となるよう添字を付けなおして、部分列をとる。 $A_k$  をコンパクト集合  $K_k$  で内側から近似しておく。

$$\begin{aligned} \{\mu'(p_{1, \dots, k}^{-1}(A_k) \setminus p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k)) &= \mu'(p_{1, \dots, k}^{-1}(A_k \setminus K_k)) \\ &= p_{1, \dots, k \#} \mu'(A_k \setminus K_k) \mu_k(A_k \setminus K_k) \leq \frac{\alpha}{2^{k+1}} \text{ が成立.} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \mu' \left( \bigcap_{k=1}^n \{p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k)\} \right) &\geq \mu'(p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n)) - \mu' \left( p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n) \cap \left( \bigcap_{k=1}^n p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k) \right)^c \right) \\ &= \mu'(p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n)) - \mu' \left( \bigcup_{k=1}^n p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n) \cap (p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k))^c \right) \\ &= \mu'(p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n)) - \sum_{k=1}^n \mu' \left( p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n) \cap (p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k))^c \right) \\ &= \alpha - \frac{\alpha}{2} = \frac{\alpha}{2} > 0 \end{aligned}$$

(第一不等号は、 $K_k \subset A_n$  故に、 $\bigcap_{k=1}^n p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k) \subset p_{1, \dots, n}^{-1}(A_n)$  だから.)

$\bigcap_{k=1}^n p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k) \neq \emptyset$  なので、各  $n$  に対して、

$x^n := (x_1^n, x_2^n, \dots) \in \bigcap_{k=1}^n p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k) \subset \mathbb{R}^\infty$  をとり  $\{x^n\} \subset \mathbb{R}^\infty$  という列をつくると、

$n \leq m \Rightarrow x^m \in \bigcap_{k=1}^n p_{1, \dots, k}^{-1}(K_k)$  なので、 $p_{1, \dots, n}(x^m) \in K_1, \dots, K_n$  である。従って、

$$x_1^1, x_1^2, x_1^3, \dots \in K_1$$

$$x_2^1, x_2^2, x_2^3, \dots \in K_2$$

$$x_3^1, x_3^2, x_3^3, \dots \in K_3$$

となるので、うまく収束部分列をとる操作を繰り返すことで、 $(x_1, \dots, x_n) \in \bigcap_{k=1}^n K_k$  である。

故に、 $x = (x_1, x_2, \dots) \in \bigcap_{k=1}^{\infty} K_k$  なる元をとると、 $x \in \bigcap S_k$  が成り立つ。

□